

外国語センター教官近況報告 (2000～2001年秋)

久保田正人

- (単著)「最近の英語意味論研究と高等学校の英語教育」『言語文化論叢』第7号、2000年12月
(単著)「主語の位置に生ずる、定冠詞を伴わない最上級について」『意味と形のインターフェイス (上巻)』、くろしお出版、2001年3月25日

村田 年

- 「英語表現理解に辞書をどう役立てるか」『言語文化論叢』第7号、2000年12月。
「学習辞典の今後の方向—コロケーションを中心に」『英語通信』25号、大修館書店、2001年1月。
『英単語発想辞典』改訂版 (分担執筆)、三修社、2001年1月。
(書評) 中村匡克・田辺洋二編『ワードパル英和辞典』小学館、『英語表現研究・Bulletin』第38号、2001年4月。
「日本人と英語国民との文章構成の相違について」『言語文化論叢』第9号、2001年12月。
＜口頭発表、その他＞
「生きた英語の基礎を定着させる語彙指導と辞書の活用」国際教育研究所第64回月例研究会 (於 市ヶ谷法曹会館) 2001年5月26日。
「日本人と英語国民との文章構成の相違について」日本英語表現学会第30回大会 (於 北海道東海大学) 2001年6月22日。
Reading, Vocabulary Acquisition and Bilingual Dictionaries for Learners. The Second ASIALEX International Congress. (Yonsei University, Korea) Aug. 9, 2001. (Asian Association for Lexicography, ASIALEX 2001 Proceedings. 2001. pp. 16-21.
「JACET基本語改訂委員会報告」「シンポジウム：JACET基本語 (改訂4版) について」の司会兼提案者として、大学英語教育学会第40回大会 (於 藤女子大学) 2001年9月14日。

田端敏幸

- “Foot-based word formation and its prosodic structure in Japanese,” *Phonological Studies* 4. 103-110. The Phonological Society of Japan. 2001年3月
「日本語におけるフット依存の語形成とそのアクセント型について」
『意味と形のインターフェイス 下巻』921-931. くろしお出版 2001年3月

椎名紀久子

＜論文＞

土肥 充, 椎名紀久子, 竹蓋幸生, 「CALLの現状分析とコースウェア開発における今後の課題」, 『言語文化論叢』, 千葉大学外国語センター, 第6号, 1999, pp. 147-171.

椎名紀久子, 「「TV英語」科目におけるアカデミックレベルのコミュニケーション能力養成—独自開発教材による指導と効果の検証」, 『言語文化論叢』, 千葉大学外国語センター, 第6号, 1999, pp. 131-145.

及川邦裕, 郭賢美, 椎名紀久子, 「PowerPointを活用した簡易型英語CD-ROM教材の開発—コミュニケーション能力の養成を目指して」, 『関東甲信越英語教育学会研究紀要』, 第15号, 2001, pp. 13-25.

椎名紀久子, 及川邦裕, 「コミュニケーション能力養成用CD-ROM教材の分析的考察—英語CALL教材の高度化に向けて」, *Language Education & Technology*, 外国語教育メディア学会, No. 38, 2001, pp. 145-174.

竹蓋幸生, 村田 年, 大塚達雄, 水光雅則, 椎名紀久子, 高橋秀夫, 土肥 充, 西垣知佳子, 竹蓋順子, 「英語CALL教材の高度化の研究」, 『特定領域研究(A) 高等教育改革に資するマルチメディアメディアの高度利用に関する研究 研究成果報告書 平成12年度計画研究』, 研究代表者坂本昂, 2001, pp. 159-172.

＜研究発表、他＞

椎名紀久子, 「千葉大学で開発されたCALLのための指導理論と教材開発」, 熊本大学マルチメディア利用の外国語教育開発プロジェクト講演会, 平成12年3月10日, 於熊本大学.

及川邦裕, 椎名紀久子, 「英語力養成用市販CD-ROM教材の分析的考察」, 外国語教育メディア学会関東支部107回 (2000年度) 研究大会, 平成12年6月10日, 於津田塾大学.

椎名紀久子, 「CALLと英語教育—マルチメディアの活用法」, 夏期公開講座「英語教育の明日を考える—21世紀の日本の英語教育が抱える課題」, 平成13年8月28日, 桜美林大学大学院.

椎名紀久子, 「習熟度別教育について—コンピュータ支援の英語教育」, 第18回関東地区大学教育研究会, 平成13年9月29日, 於防衛大学校.

椎名紀久子, 楊 昉, 「三ラウンド制の指導理論に基づいた日本語CALL教材の開発」, 外国語教育メディア学会関東支部110回 (2001年度) 研究大会, 平成13年10月13日, 於常磐大学.

郭 賢美, 及川邦裕, 椎名紀久子, 「CALLの有機的活用による英語教育システム—基礎的研究」, 外国語教育メディア学会関東支部110回 (2001年度) 研究大会, 平成13年10月13日, 於常磐大学.

土肥 充, 竹蓋幸生, 高橋秀夫, 椎名紀久子, 西垣知佳子, 竹蓋順子, 「三ラウンド・システムに基づいた英語CALL教材の開発とその試用」, 日本教育工学会第17回全国大会, 平成13年11月24日, 於鹿児島大学.

<CD-ROM教材>

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語初級 Vol. 1, Listen to Me! First Listening, 千葉大学, 2001. (評価担当)

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語中級 Vol. 1, Listen to Me! College Life, 千葉大学, 2001. (評価担当)

大山中勝

「コミュニケーション・スタイル：日本人英語教師のフォマリティについての一考察」『言語文化論叢』7号、千葉大学外国語センター、2000、pp. 115-132.

高橋秀夫

<論文>

高橋秀夫, 「Windows 版英語語彙学習用ソフトウェアの開発」, 『言語文化論叢』, 第6号, 千葉大学外国語センター, 1999, pp. 115-129.

長谷川修治, 高橋秀夫, 竹蓋幸生, 「イディオム検索のためのアルゴリズム開発に関する実験的研究」, 『Language Laboratory』, 第37号, 2000, pp. 131-142.

高橋秀夫, 竹蓋順子, 「語彙指導システムのインターネット化に関する一考察」, 『言語文化論叢』, 第7号, 千葉大学外国語センター, 2000, pp. 61-74.

竹蓋幸生, 村田 年, 大塚達雄, 水光雅則, 椎名紀久子, 高橋秀夫, 土肥 充, 西垣知佳子, 竹蓋順子, 「英語CALL教材の高度化の研究」, 『特定領域研究(A) 高等教育改革に資するマルチメディアメディアの高度利用に関する研究 研究成果報告書 研究成果報告書 平成12年度計画研究』, 研究代表者坂本昂, 2001, pp. 159-172.

高橋秀夫, 土肥 充, 「大学職員英語研修におけるコミュニケーション能力の育成」, 『言語文化論叢』, 第8号, 千葉大学外国語センター, 2001, pp. 31-40.

<研究発表>

高橋秀夫, 「外国語CALL教材高度化の研究」, 特定領域研究(A) 高等教育改革に資するマルチメディアメディアの高度利用に関する研究 平成13年度第1回領域全体会議, 平成13年6月29日, 於学術総合センター.

竹蓋順子, 高橋秀夫, 土肥 充, 竹蓋幸生, 「英語総合力養成のためのCALL教材の開発とその試用：科学研究費補助金による研究」, 第1回全国英語教育学会広島研究大会, 平成13年8月9日, 於広島国際会議場.

土肥 充, 竹蓋幸生, 高橋秀夫, 椎名紀久子, 西垣知佳子, 竹蓋順子, 「三ラウンド・システムに基づいた英語CALL教材の開発とその試用」, 日本教育工学会第17回全国大会, 平成13年11月24日, 於鹿児島大学.

<教材開発>

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語上級 Listen to Me! Vol. 3, TV-News, メディア教育開発センター, 千葉, 2000.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語上級 Listen to Me! Vol. 4-1, Movie Time 1, メディア教育開発センター, 千葉, 2000.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語上級 Listen to Me! Vol. 4-2, Movie Time 2, メディア教育開発センター, 千葉, 2000.

植村研一, 竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語中上級 Vol. 1, 医学英語, Listen to Me! Medical English, メディア教育開発センター, 千葉, 2001.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語初級 Vol. 1, Listen to Me! First Listening, 千葉大学, 2001.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語中級 Vol. 1, Listen to Me! College Life, 千葉大学, 2001.

土肥 充

<論文>

土肥 充, 椎名紀久子, 竹蓋幸生, 「CALLの現状分析とコースウェア開発における今後の課題」, 『言語文化論叢』, 第6号, 千葉大学外国語センター, 1999, pp. 147-171.

高橋秀夫, 土肥 充, 「大学職員英語研修におけるコミュニケーション能力の育成」, 『言語文化論叢』, 第8号, 千葉大学外国語センター, 2001, pp. 31-40.

<研究発表>

竹蓋順子, 高橋秀夫, 土肥 充, 竹蓋幸生, 「英語総合力養成のためのCALL教材の開発とその試用: 科学研究費補助金による研究」, 第1回全国英語教育学会広島研究大会, 平成13年8月9日, 於広島国際会議場.

土肥 充, 竹蓋幸生, 高橋秀夫, 椎名紀久子, 西垣知佳子, 竹蓋順子, 「三ラウンド・システムに基づいた英語CALL教材の開発とその試用」, 日本教育工学会第17回全国大会, 平成13年11月24日, 於鹿児島大学.

<教材開発>

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語上級 Listen to Me! Vol. 3, TV-News, メディア教育開発センター, 千葉, 2000.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語上級 Listen to Me! Vol. 4-1, Movie Time 1, メディア教育開発センター, 千葉, 2000.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語上級 Listen to Me! Vol. 4-2, Movie Time 2, メディア教育開発センター, 千葉, 2000.

植村研一, 竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語中上級 Vol. 1, 医学英語, Listen to Me!

Medical English, メディア教育開発センター, 千葉, 2001.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語初級 Vol. 1, Listen to Me! First Listening, 千葉大学, 2001.

竹蓋幸生監修, CALL教材シリーズ 英語中級 Vol. 1, Listen to Me! College Life, 千葉大学, 2001.

Glenn Koch

“Language and Culture”『言語文化論叢』6, 千葉大学外国語センター, 1999. 12

“Economic Analysis of Asian Growth Triangles The Johor-Singapore-Riau Growth Triangle” in Chiba Foreign Language Centre Monograph, 『言語文化論叢』7, 千葉大学外国語センター, 2000. 12

“Japanese Immigrants in the United States and Canada A Comparative Analysis” in Chiba Foreign Language Centre Monograph, 『言語文化論叢』7, 千葉大学外国語センター, 2000. 12

“Contrastive and Error Analysis” in Chiba Foreign Language Centre Monograph, 『言語文化論叢』8, 2000. 7

Lorene Pagcaliwagan-Davis

A nonnative speaker of English as he uses the past tense in spoken and written English

April 28, 2000. Lexington, Kentucky, U.S.A. Kentucky Foreign Language Conference.

La Competencia Nativa: Una Meta Para Todos Los Estudiantes?

Spring 2001. Center for Foreign Languages, Chiba University. Papers on Languages and Cultures No. 8, July 2001.

田中 慎

<発表論文>

2000年

1. Wir waren auch dabei. – Wir waren nur dabei? : auch als Topikpartikel. (Wir waren auch dabei. – Wir waren nur dabei? : トピック詞としてのauch) in: Sprachwissenschaft 25/1.
2. sumomomomo: Topikpartikel im Japanischen. (すももももも : 日本語のトピック詞について) in: 千葉大学外国語センター言語文化論叢7.
3. 千葉大学普遍教育初級ドイツ語におけるガイドライン (清野智昭氏との共著) in: 千葉大学外国語センター言語文化論叢7.

2001年

4. *If it will be sunny tomorrow: eine Universalie der Unsicherheit. (*if it will be sunny to-

morrow：不確実さという普遍性) in：千葉大学外国語センター言語文化論叢8.

5. (近刊) Der Mensch im Akkusativ: Universalität und Sprachspezifik der Akkusativität.
(対格をとる人間：対格性の普遍性と個別言語性) in：第34回言語学コロキウム論集（ドイツ：ゲルマースハイム）.
6. (近刊) Der Herbst ist gekommen./Aki ki-nu: Perfektbildung nach der Argumentstruktur.
(Der Herbst ist gekommen/秋来ぬ：項構造による完了形成) 第35回言語学コロキウム論集
(オーストリア：インスブルック).

<翻訳>

2002年春刊行

1. テキストとしてのドイツ語文法. ハラルト・ヴァインリヒ著. 三修社. (共訳)

<研究発表>

2000年

1. I-Topikalisierung (イントネーションによる話題化の一形式) at：ドイツ語生成文法研究会. 東京. (日本語)
2. *If it will be sunny tomorrow: eine Universalie der Unsicherheit. (*if it will be sunny tomorrow：不確実さという普遍性) at：第28回日本独文学会言語学ゼミナール. 京都. (ドイツ語)
3. Der Herbst ist gekommen./Aki ki-nu: Perfektbildung nach der Argumentstruktur. (Der Herbst ist gekommen/秋来ぬ：項構造による完了形成) at：第35回言語学コロキウム（オーストリア：インスブルック）. (ドイツ語)

2001年

4. Zu Hause wird nicht gearbeitet! : das impersonale Passiv im Deutschen. (Zu Hause wird nicht gearbeitet! : ドイツ語の非人称受動について). at：第29回日本独文学会言語学ゼミナール. 京都. (ドイツ語)
5. Can't buy me love: eine Kombinatorik von Subjekt und Topik im Deutschen. (Can't buy me love：ドイツ語における主語と主題のコンビネーションについて) at：第36回言語学コロキウム（スロベニア：リュブリアナ）. (ドイツ語)
6. Der Praesident selbst hat selbst schon mal die Loesung nicht selbst gefunden：ニュアンス詞としてのselbstについて. at：日本独文学会2001年秋季研究発表会. 松本. (日本語)

山岡捷利

風景画のために—マチスの風景画を目指して—『言語文化論叢』第6号 1999年12月

アリス狩り 『言語文化論叢』第7号 2000年12月

泉利 明

「文学の過去と現在」『言語文化論叢』第8号 2001年7月

高橋信良

「千葉大学普遍教育フランス後におけるガイドライン」、『言語文化論叢』第7号 2000年12月

御子柴道夫

「ロシア思想史(三)」『言語文化論叢』第8号 2001年7月

周 飛帆

「第7章 中国の少数民族教育問題」東京学芸大学海外子女教育センター編『異文化との共生をめざす教育』三友社 2001年3月

「Ⅲ第一章 中国…少数民族に対する教育政策とその理念」天野正治、村田翼夫編『多文化共生社会の教育』玉川大学出版会 2001年9月

<論文>

「多民族国家中国の教育問題…少数民族に対する二言語教育の歴史と現状」『言語文化論叢』第7号 2000年12月

「サンフランシスコ華人新移民のエスニック・アイデンティティに関する調査研究」『言語文化論叢』第8号 2001年7月

<その他>

周 飛帆、橋本雄一、韓 越「千葉大学普遍教育の初級中国語における到達目標」『言語文化論叢』第7号 2000年12月

講演 「Chinese New Immigrants in Japan: Traditional Values, Adaptation and Identities」San Francisco, Department of Ethnic Studiesにて。2001年4月17日

橋本雄一

「「異者」が表象される発話空間—1940年代前半の「座談会」と「発言」について—」『人文学報』第311号、東京都立大学人文学部中国文学研究室、2000年3月

「住居と病室の空間原則—尾崎放哉の朝鮮・「満洲」・台湾—」文化探究誌『朱夏』第14号、せらび書房、2000年4月

「特集 俳人と歌人のアジア地図」を責任編集。文化探究誌『朱夏』第14号、せらび書房、2000年4月

周 飛帆、橋本雄一、韓 越の共著「千葉大学普遍教育の初級中国語における到達目標」『言語文化論叢』第7号、千葉大学外国語センター、2000年12月

口頭発表「「植民地」的なものの表象はどのように可能か—爵青の小説から考える」「満洲国」文

(112)

学研究会定例会（明治学院大学にて）、2001年9月15日

韓 越

「日本人中国語学習者における初級段階の文法導入に関する考察—誤用分析とその対策の視点から」『言語文化論叢』第7号 2000年12月

周 飛帆、橋本雄一、韓 越の共著「千葉大学普遍教育の初級中国語における到達目標」『言語文化論叢』第7号、千葉大学外国語センター、2000年12月